

富士見小だより



富士見小 HP

学校教育目標 「未来を切り拓く心豊かな児童の育成」
校 訓 かしこく やさしく 元気よく

上尾市立富士見小学校 上尾市柏座 4-3-8 電話 048 (771) 0505

令和7年11月 1日

発行責任者

校長 吉田 充

本気で取り組む

校長 吉田 充

日が暮れるのが一段と早くなり、晩秋の気配が深まる頃となりました。2学期も後半を迎え、子供たちは充実した学校生活を送っています。

さて、先月ノーベル賞の受賞者が発表されましたが、日本からは、坂口志文さん（生理学・医学賞）、北川進さん（化学賞）が選ばれました。

栄えある功績の陰でお二人の研究への取組において共通していることは、当初は周囲からの期待や関心は薄く、その成果がなかなか認められなかったものの、自分の信念や実験結果を信じて曲げず、世界に認められるようになるまで研究を継続したことにあると思います。

坂口さんは座右の銘として「一つ一つ」、北川さんは「勁草」（激しい風が吹いている時こそ、強い草かどうかわかる）という言葉を挙げています。お二人とも、逆境に見舞われてもいつかはこの取組は評価されると信じ、自分のすべきことを地道にコツコツと積み重ねてきた結果としての、受賞だったのだと思います。

話は本校の子供たちに移りますが、令和7年度も半分を折り返し、子供たちは様々な教育活動を経験することでその学年にふさわしい力を身に付け、成長していると感じています。時には、うまくいかなかったり、苦手なことにぶつかったりすることもあるかと思いますが、私が学校朝会などで常に子供たちに伝えているのが、失敗を恐れずチャレンジしてほしいということです。何事にも本気になって取り組んでほしい、本気になって取り組むからこそ、それが本物の力になるということを、様々な経験を通して実感させたいと考えています。

結果のよしあしももちろん大事ですが、さらに大事なのは、取り組む過程の中でうまくいったり、失敗したりを繰り返すことで、自分が何を考え、今後のその経験をどう生かしていくのかということだと思います。苦難の連続の中から偉業を成し遂げたお二人の足跡から、本気になって取り組むことの大切さを、子供たちには感じてほしいと願っています。

また、何かができるようになるためには、本人の努力以外にはありませんが、周りにいる大人たちや友だちからのよい言葉かけや刺激がないと、困難な壁は乗り越えられません。教員、保護者、地域の方々、そして友だちなど、学校や家庭、地域でみんなが励ましてくれるからこそ、子供たちはあきらめずに努力し、成長を実感できるのだと思います。

結びとなりますが、11月は上尾市教育月間です。家庭・地域と連携した教育の充実を図り、子供たち一人一人のもつよさや可能性の伸張を図りながら、富士見小の歴史と伝統を築いていきたいと思っています。引き続き、本校教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。